

天王小児童育てた大豆や米で製造「風の子みそ」味わって スーパー買い物客に販売



天王小学校（潟上市、菊地蝶子校長）の6年生は4日、スーパー・テラタ天王店で、自分たちで育てた大豆や米で製造されたみその販売会を開いた。児童たちは買い物客に元気に声をかけ、自慢の商品を売り込んだ。

天王小では10年ほど前から、総合的な学習の授業でみそ造りに取り組んでいる。2020年度からは、学校近くにある三浦醤油店に依頼して商品化。大豆を模した

キャラクターや学校のシンボルであるヒマワリなどをラベルに描き、「風の子みそ」と名付けて売っている。

20、21年度は新型コロナウイルスの影響もあり、道の駅に置いて販売していたが、22年度は初めて児童による対面販売に挑戦。4日は6年生49人のうち有志15人が参加し、300グラム入り440円を約300パック売った。

児童たちは「私たちが育てた大豆を使っています」「好きなラベルを選んで」などとアピール。買い物客は児童と会話をしながら購入していた。

鈴木矩美さん(11)は「お客さんの目に留まるようにラベルの絵にこだわった。キュウリにつけて食べてもらいたい」、谷岡元基君(12)は「初めての接客は難しかったけど、たくさんの人に買ってもらえてうれしい」と話した。

(菊地隆秀)

(令和5年3月5日(日)秋田魁新聞より一部抜粋)

